

名大の時間

ボランティア学生記者始動！

これまで広報web委員会や就職進路委員会など様々な委員会に所属してきた。

どれもやりがいのある仕事だ。先の見えないコロナ禍において、どの委員会も試行錯誤を繰り返して、大学をより良くしていこうとしている。

私は、今年度もコミュニティケア教育研究センター委員としてセンターの運営に携わっている。昨

年度は、コロナの影響でボランティア活動が出来ない中、学生がボランティアへの興味を失わないように「ボランティア通信」を計10回発行した。

今年度は、さらに発展させて「ボランティア通信」を学生と教員が一緒につくっていく。教員側が

一方的に情報を発信するのではなく、学生自身がボランティ

アを見つめ、考え、そして記事を書いてもらう。

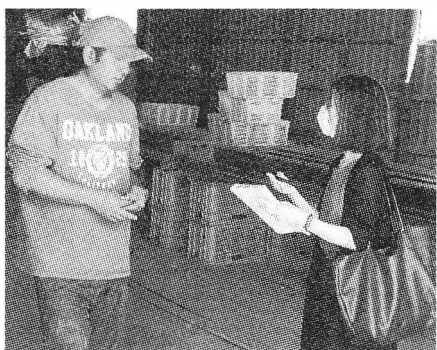
学生記者を募集したところ6名の学生が手を挙げてくれた。初回の打ち合わせは、想定していた時間を超えて盛り上がった。今にも会議室を飛び出し取材に出かけそうな勢いだ

った。これまでコロナにより押さえつけられていた知的好奇心が爆発した瞬間だ

と思った。

初となる学生記者による通信のテーマは「援農ボランティア」に決まった。さっそく初回打ち合わせの3日後に現場に行き、受け入れ先の農家さんに話を聞き、ボランティアの現場を見学した。取材した学生は緊張している様子だったが、事前に考えた質問をしっかりと聞き、一生懸命メモをとっていた。

数日後、紙面構成や発行に向けたスケジュールについて打



がした。

これからボランティアに参加した学生への取材や、コーディネートをしている教員に対して取材を行って

ち合せをしていた際、ある学生が「大学生らしいことが出来て嬉しい」と興奮した様子で言った。もともと学生生活を

く。学生記者がこれからどのようにボランティアを描くのか。瞳を輝かせた学生達はもう誰にも止められない。

楽しんでもらうための企画だったが、結果的に私が救われた気

社会福祉学科

講師 江連 崇

学内には、多数の委員会が存在する。